

平成 2 2 年度

(第 2 / 3 回)

(集団研修)

生物多様性保全のための

野生動物問題解決手法

実施要領

平成 2 2 年 9 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	6
11. その他	6

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 研修日程
- 付表－3 カリキュラム（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：（集団研修）生物多様性保全のための野生動物問題解決手法

英文：Group Training Program on “Wildlife Issue Solutions for Biodiversity Conservation”

(2) 受入期間

平成 22 年 9 月 26 日（日）～ 12 月 4 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 22 年 10 月 4 日（月）～ 12 月 3 日（金）

(4) 定員、割当国

受入人数：5 名

割当国：インドネシア（1 名）、マレーシア（2 名）、ケニア（2 名）

(5) 対象機関：自然環境保全、森林、農業関連の公的機関または NGO

(6) 研修類型：課題解決促進型

(7) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

地球上の様々な地域において、人口増加による食糧増産への需要の高まりから農地としての土地利用が進んでいる。これに伴い、鳥獣による農林業や人身被害、新旧の伝染病（鳥インフルエンザ・ウェストナイル・慢性消耗疾患など）の発生等、野生動物と人との間の軋轢による人間側での生産性や生活の質の低下と、自然環境や生物多様性の劣化・喪失による生態系からの恩恵の減少とが同時に起きている。生産性や生活の質の向上と生物多様性の保全の両方に配慮した環境保全政策の策定が求められている。

そのためには、軋轢の原因と現状の究明、すなわち、土地利用や人間活動の現状と変化の把握（GIS の活用）や生態学的な調査を行い、それらを基に情報の蓄積、共有、公開（データベースの構築や発信）、対策に向けての社会的な仕組みの構築（住民参加型のアプローチ

チ、官民協働管理)、法の整備や保護区などの見直しなどを行う必要がある。

本案件では、途上国においてまだ十分に普及していないGISの活用、データベースの構築や発信、住民参加型のアプローチなどの技術と適応方法やその考え方について研修を行い、人と自然の共生が可能な問題解決型多様性保全計画策定を目指す。

3. 案件目標

野生動物管理計画に携わっている組織において、農林業被害、感染症、人身事故といった野生動物と人間活動の軋轢を解決するための防除、解決策を含む試行計画が策定される。

4. 単元目標

本研修は3ヵ年で案件目標を達成できるように、年度ごとに定められた単元目標に沿ったカリキュラムが設定されている。

【1年次】

単元目標1：自国や日本、諸外国における野生動物問題を説明できる。

単元目標2：野生動物問題を把握するための現状調査や情報収集手法を説明できる。

単元目標3：野生動物問題を整理・分析し、問題解決の基礎資料が作成できる。

【2年次】

単元目標4：単元1～3で得られた知識や基礎資料、問題分析の結果をもとに野生動物問題の解決手法を検討し、試行計画書案の作成ができる。

【3年次】

単元目標5：試行計画案の問題分析ができ、試行計画書の最終案の作成ができる。

5. 研修成果品

1)「初期報告書(Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

2)「中間報告書(Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に中間報告書を作成し、コース終盤に発表する。

(a) 1 年次：研修で作成した野生動物問題の基礎資料および分析結果をまとめる。

(b) 2 年次：試行計画書案の作成

3) 「現地活動報告書 (Progress Report)」の作成

(a) 1 年次帰国後：基礎資料や分析結果の検討および分析や改善

(b) 2 年次帰国後：自国での試行計画書案の共有と課題点の検討

4) 「最終報告書 (Final Report)」の作成

3 年次本邦研修終了後、2 年次の中間計画書に記された試行計画案を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な試行計画をまとめ、帰国後 3 ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。

6. 研修員参加資格要件

(募集要項記載条件)

ア. 野生動物管理計画に携わっている業務責任者

イ. 3 年以上の実務経験を有する者

ウ. 25 歳以上 45 歳以下の者

(各案件共通資格要件)

エ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。

オ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。

カ. TOEFL iBT 72 点 (CBT 200 点 / PBT 533 点) 以上に相当する英語能力を有すること。

キ. 心身ともに健康なこと。

ク. 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センタ

ー（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務（コースリーダーの配置を含む）を特定非営利活動法人 En Vision 環境保全事務所に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間など）

イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) 特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料の手配、作成、印刷製本等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（1 頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に、質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、特定非営利活動法人 En Vision 環境保全事務所らが参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
9 月 27 日（月）	集合ブリーフィング

28 日（火） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の経済」 生活オリエンテーション
29 日（水） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の教育」 講義「日本の社会と日本人」 講義「日本の政治・行政」「日本の歴史・文化」
30 日（木）	日本語講習
10 月 1 日（金）	日本語講習

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 帯広市西 20 条南 6 丁目 1-2

Tel（0155）35-2001 Fax（0155）35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

平成22年度 研修員関連情報

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／記述読解能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名、県又は地名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Mr. MUNAWIR Ahmad ② D-10-05284 ③ 37 ④ 男 ⑤ インドネシア	① シンペルト国立公園 管理課 課長 ② 6年 ③ ボゴール農業大学（森林天然資源保全） ④ BBBC ⑤ なし	① ・活動計画及び予算の作成 ・評価、報告、管理及び地域強化 ・法の執行 ・自然観光および天然資源事業の開発 ・天然資源及び生態系の保全 ・保護地域管理への協力 ② 1 森林地域、森林データ及び情報の質を確保するために森林地域の指定を増加する 2 天然資源の持続的な利用を含む天然資源の保護及び保全を改善、実施する 3 管理及び技術支援を行うため部署の強化を図る	・保護地域における協働体制を構築するための戦略及び管理手法 ・保護地域における協働管理の概念、原則及びモデル
2	① Mr. KIPTOO William Chemweno ② D-10-05012 ③ 38 ④ 男 ⑤ ケニア	① ケニア野生生物公社 地域野生動物担当官 ② 2年 ③ ケニヤッタ大学（環境計画・管理修士） ④ AAAA ⑤ なし	① ・野生動物保全に関する地域への働きかけ ・教育及び啓蒙活動の実施 ・生物多様性に関するインベントリーの作成 ② 他の関係者との連携により、国内の野生動物及びその生息地を持続的に保全、管理する	21世紀の保全課題に対処する最新技術の活用法。特に課題解決策の普及方法、如何に人々に影響を与え、野生動物の損失や生息地の減少を食い止めることが出来るかについて関心がある。
3	① Mr. KALA Adan Hokile ② D-10-05015 ③ 38 ④ 男 ⑤ ケニア	① ケニア野生生物公社 野生動物・地域サービス課 副公園管理官 ② 3年 ③ モイ大学（野生動物管理） ④ AAAA ⑤ タンザニア（野生動物管理、'99-'01年）	① ・公社と近隣地域及び関係者の橋渡し役 ・現場職員の調整及び監督 ・プロジェクト及び方針の実施 ② 他関係者との連携により、国内の野生動物及びその生息地を持続的に保全、管理する	・PCM手法 ・生物多様性保全の国際的なアプローチ ・情報収集、分析及び保存
4	① Mr. JUSTINUS Guntabid ② D-10-06120 ③ 39 ④ 男 ⑤ マレーシア	① サバ州公園局 公園管理・監視課 自然保護官 ② 1年 ③ サバ大学（林学） ④ BBBC ⑤ なし	① 保護区内におけるエコツーリズム推進への関与 ② 1 総合的な管理手法、人材開発及び公園法の強化を通じて保護区を効果的且つ効率的に管理する 2 サバ州の主要な生息地を確認、保護区を設置する 3 保護区に関連する研究を多様化、強化する 4 希少種、絶滅危惧種及び固有種の保護プログラムを実施する 5 今後の環境変化と比較するための基準を設定する 6 保護区内のエコツーリズム振興を持続的に行う 7 ビジターや保護区近隣の地域に対する啓発プログラム及び環境調査を実施する	公園内または近隣区域に居住する人間と野生動物間の軋轢に対処する中で、保護区管理を優先させる方法に関心がある。
5	① Mr. JUANNIS Gampoyo ② D-10-06121 ③ 39 ④ 男 ⑤ マレーシア	① サバ州公園局 調査・教育部 研究助手 ② 6年 ③ マレーシア大学（管理） ④ CCCC ⑤ なし	① 調査及び保護区における野生動物のリハビリ ② 同上	野生動物と人間の軋轢に関心がある。特に野生動物調査とリハビリテーションプログラムについて学びたい。

付表-2

研修日程(案)

月／日	曜	時間	区分	内容	担当(講師)	研修場所	備 考	
9/26	日			来日				
9/27	月	9:30~		集合ブリーフィング				
9/28	火	9:30~		ジェネラルオリエンテーション				
9/29	水	9:30~		ジェネラルオリエンテーション				
9/30	木	9:30~16:00	講義	日本語集中講座				
10/1	金	9:00~16:00	講義	日本語集中講座				
		16:10~17:10		プログラムオリエンテーション (2F セミナー2)	EnVision環境保全事務所 赤松里香			
10/2	土			休日				
10/3	日			休日				
10/4	月	9:15~9:45		市長表敬訪問	EnVision環境保全事務所 赤松	JICA帯広		
		10:15~13:45		インセプションレポート発表会 (2F オリエンテーションルーム)	EnVision環境保全事務所 赤松、日野、宮、山本、 酪農大 吉田、自然環境 山口、岡本葉子			
		14:00~16:00	講義	日本・北海道の自然と保全	酪農学園大学 赤坂 猛			
		16:30~17:30		Welcome Tea Party (1F 会議室)	EnVision環境保全事務所 赤松、日野、宮、山本、 酪農大 赤坂、吉田、自然環境 山口、岡本葉子			
10/5	火	9:00~12:00	講義	G I S と野生動物管理	酪農学園大学 吉田 剛司		JICA帯広	
		13:00~16:00	講義	住民参加手法概説	岡本 葉子			
10/6	水	9:00~12:00	講義	外来種	EnVision環境保全事務所 赤松里香		JICA帯広	
		13:00~16:00	講義	野生動物とヒトの交通事故	(社)北海道開発技術センター 野呂美沙子			
10/7	木	9:00~12:00	講義・実習	野外調査手法	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一、立木靖之		JICA帯広	
		13:00~16:00	講義・実習	野外調査手法	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一、立木靖之			
10/8	金	9:00~12:00	講義・実習	野外調査手法	EnVision環境保全事務所 早稲田宏一、立木靖之	JICA帯広		
		13:00~16:00	講義	振り返り・視察説明	EnVision環境保全事務所 赤松里香			
10/9	土	9:00~12:00		休日				
10/10	日			休日				
10/11	月					釧路ロイヤル ホテル		
		14:00~16:00	講義	移動(帯広→釧路)				
10/12	火	9:00~12:00	講義	生物多様性データベース&モニタリング	生物多様性センター(山梨) 柳川	環境省釧路地方事務所		
		13:00~16:00	講義	日本の国立公園と生物多様性保全	環境省釧路地方事務所			
10/13	水	8:30~10:30		移動(釧路→霧多布)		霧多布湿原トラスト	ペンション ボーチ	
		10:30~12:30	実習	ケンボッキツアー	NPO法人霧多布湿原トラスト 瓜田勝也			
		13:30~16:00	講義	霧多布湿原トラスト活動紹介&ディスカッション	NPO法人霧多布湿原トラスト 高井文子			
10/14	木	10:00~12:00	講義	霧多布湿原センター見学&紹介&ディスカッション	NPO法人霧多布湿原トラスト 高井文子	霧多布湿原センター	らうす 第一ホテル	
		13:30~16:30		移動(霧多布→羅臼)				
10/15	金	9:00~11:30	講義	知床羅臼自然センター	知床財団 新藤 薫	知床羅臼自然センターほか	ホテル知床	
		11:30~14:30	視察	羅臼町内の野生生物対応	知床財団 石名坂 豪			
		14:30~15:30		移動(羅臼→ウトロ)				
		15:30~		ブレベの滝又は五湖散策	EnVision環境保全事務所 赤松里香			
10/16	土	9:00~10:30	講義	知床世界自然遺産における野生動物の保護管理	知床財団 小平真佐夫または葛西真輔	鳥獣保護区管理センター 知床財団ほか		
		10:30~13:30	視察	斜里町内の野生生物対応				
		13:30~16:00	視察	ブレベの滝又は五湖散策、世界遺産センター見学				
10/17	日	9:30~11:30	視察	エコロード(交通事故対策)	EnVision環境保全事務所 赤松里香	JICA帯広		
		12:00~18:00		移動(知床→帯広)				
10/18	月			自主学習				
10/19	火	8:00~15:30		移動(帯広→神戸)		JICA神戸		
10/20	水	9:00~12:00	講義	野生動物保護管理	野生動物保護管理事務所 岸本真弓	野生動物保護管理事務所	豊岡市	
		13:00~14:00		移動(神戸→三田市フラワータウン)				
		14:30~17:00	講義	環境保全に向けた情報の共有と環境教育	兵庫県立人と自然の博物館 三橋弘宗	兵庫県立人と自然の博物館		
		17:00~19:00		移動(三田→豊岡)				
10/21	木	9:00~12:00	視察	兵庫県立コウノトリの郷公園(豊岡市))	兵庫県立コウノトリの郷公園 三橋陽子	兵庫県立コウノトリの郷公園	丹波市	
		13:00~16:00	視察	兵庫県立コウノトリの郷公園視察	兵庫県立コウノトリの郷公園 三橋陽子			
		16:00~18:00		移動(兵庫県立コウノトリの郷公園→丹波)				
10/22	金	9:00~12:00	講義	兵庫県における野生動物問題(主にサル、移入種)解決に向けた調査、対策、研究	兵庫県森林動物研究センター 坂田宏志	兵庫県森林動物研究センター	米原	
		13:30~17:00		移動(丹波→米原)				
10/23	土	9:00~12:00	講義	科学的データに基づいた対策の重要性	イーグレットオフィス 須藤 明子	イーグレットオフィス	ダイワロイネット ホテル名古屋	
		13:00		移動(米原→名古屋)				
10/24	日	9:00~16:00	視察	生物多様性国際会議	EnVision環境保全事務所 宮 久史	名古屋		

付表-2

10/25	月	9:00-12:00	視察	生物多様性国際会議	EnVision環境保全事務所 宮 久史	名古屋	JICA帯広
		13:00-20:00		移動(名古屋→帯広)			
10/26	火	9:00-16:00		自主研修			
10/27	水	9:00-16:00		自主研修			
10/28	木	9:00-16:00	講義	振り返り	EnVision環境保全事務所 赤松里香	JICA帯広	
10/29	金	9:00-12:00	講義	感染症	EnVision環境保全事務所 赤松里香		
		13:00-16:00	講義	感染症	EnVision環境保全事務所 赤松里香		
10/30	土			休日			
10/31	日			休日			
11/1	月	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
11/2	火	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
11/3	水	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香	JICA帯広	
11/4	木	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
11/5	金	9:00-16:00	講義・実習	PCM手法を用いた問題解決	岡本葉子 EnVision環境保全事務所 赤松里香		
11/6	土			休日			
11/7	日			休日			
11/8	月			移動(帯広→江別)			JICA札幌
		13:00-16:00	講義	オリエンテーション	EnVision環境保全事務所 金子正美、赤松里香		
11/9	火	9:00-12:00	講義・実習	GISとは	ESRI、酪農学園大学 金子正美		
		13:00-16:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(1)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史	酪農学園大学	
11/10	水	9:00-16:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(2)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史		
11/11	木	9:00-16:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(3)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史		
11/12	金	9:00-12:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(4)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史		
		13:00-16:00	講義	GISの基礎的な使い方(5)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史		
11/13	土	10:00-15:30	講義・視察	野生動物問題解決における動物園の取り組み&園内視察	酪農学園大学 吉田剛司 EnVision環境保全事務所 赤松里香	円山動物公園	
11/14	日			休日			
11/15	月	9:00-16:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(5)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史		
11/16	火	9:00-16:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(6)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史		
11/17	水	9:00-16:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(7)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史		
11/18	木	9:00-16:00	講義・実習	GISの基礎的な使い方(8)	EnVision環境保全事務所 日野彰彦、宮 久史	酪農学園大学	
11/19	金	9:00-12:00		振り返り	EnVision環境保全事務所 金子、赤松、日野、宮 酪農学園大学 吉田		
		13:00-16:00	講義	①社会的価値観の変化と自然管理について ②ゾーニングシステムの考え方	自然環境コンサルティング 山口和男		
11/20	土			休日			
11/21	日			休日			
11/22	月	9:00-16:00	講義	リモートセンシング入門	酪農学園大学 星野弘方、ガンゾリク		JICA帯広
11/23	火	9:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング入門	酪農学園大学 星野弘方、ガンゾリク		
11/24	水	10:00-16:00	講義・実習	リモートセンシング入門	酪農学園大学 星野弘方、ガンゾリク		
11/25	木	9:00-12:00	講義	情報公開の手法	EnVision環境保全事務所 田中克佳	酪農学園大学	
		13:00-16:00	講義・実習	情報公開の手法	EnVision環境保全事務所 田中克佳、藤川三博		
11/26	金	9:00-12:00	講義・実習	クロージングディズカッション	ESRI US本社		
		13:00-16:00	討議	振り返り・ディズカッション	EnVision環境保全事務所 金子、赤松、日野 酪農学園大学 吉田剛司		
11/27	土		移動	移動(札幌→帯広)			
11/28	日			休日			
11/29	月	9:00-16:00	講義・実習	アクションプランの作成	EnVision環境保全事務所 赤松里香 岡本 葉子		JICA帯広
11/30	火	9:00-16:00	講義・実習	アクションプランの作成	EnVision環境保全事務所 赤松里香 岡本 葉子		
12/1	水	9:00-16:00	講義・実習	アクションプランの作成	EnVision環境保全事務所 赤松里香 岡本 葉子		
12/2	木	9:00-16:00	討議	まとめ討議	EnVision環境保全事務所 赤松里香 岡本 葉子		
12/3	金	9:00-12:00		アクションプラン発表会	自然環境コンサルティング 山口和男 EnVision環境保全事務所 金子、赤松、立木、日野、 酪農学園大学 吉田剛司 岡本葉子	JICA帯広	
		13:30-14:30		評価会、閉講式	自然環境コンサルティング 山口和男 EnVision環境保全事務所 金子、赤松、立木、日野、 酪農学園大学 吉田剛司 岡本葉子		
		15:00~		送別会	(社)北方圏センター/国際協力機構		
12/4	土			帰国			

科	目	講義	実習	視察	討論	講義内容
単元目標 1：自国や日本、諸外国における野生動物問題を説明できる。						
日本における鳥獣保護管理のしくみ、日本・北海道の自然	1					日本における鳥獣保護管理や農林業被害対策行政の理念と施策等の取り組みについて ² 点を見出す。
農林業被害とその対策事例	1			1		国内外の農林業被害の背景、実体とその対策を理解する。
地域絶滅種の野生復帰				1		国内外の感染症・疫学・人身事故とその対策を理解する。
人身事故とその対策事例	1			1		
単元目標 2：野生動物問題を把握するための現状調査や情報収集手法を説明できる。						
社会調査手法概論	1			1		野生動物と人の間で起こる問題を把握するために、社会学的調査手法を学び住民主体
PCM手法			5			地域住民の参加による課題の抽出と解決手法の基礎を学ぶ
野生動物の調査法概論	1	1				野生動物問題を把握するための野外調査方法を学ぶ。（テレメトリー、GPS、自覚撮
研修前半のふりかえり					1	
単元目標 3：野生動物問題を整理・分析し問題解決の基礎資料が作成できる。						
調査データの管理と情報システムの構築	2			1	1	調査データや情報のデータベース化、その管理と運用について基礎的な理論と実習 ³
GIS手法を学ぶ	2	2			1	GISソフトウェアを使用し、GIS手法の基礎を学ぶ
GISを用いた情報の作成、表示、解析手法		10			2	GIS手法を用いて、基盤情報を作成し調査結果と合わせて表示・解析する手法を学ぶ
情報の収集と発信	1	1				インターネット利用による情報の収集と発信を学ぶ
単元目標 4：単元 1 から 3 で得られてた知識や基礎資料、問題分析の結果をもとに野生動物問題解決手法を検討し、試行計画案の作成ができ						
インテリム・レポートの作成指導					4	コースリーダーの指導のもと、研修全体のふりかえりを行い、自国における野生動物 ⁴ する。
合計	10	19		5	9	

年度別受入実績表

1. 応募／選考（受入）人数

	平成21年度	平成22年度	累計
応募数	8名	7名	15名
受入数	8名	5名	13名

2. 国別受入人数

○男性●女性

国名	平成21年度	平成22年度	累計
インドネシア	○○●	○	4名
マレーシア	○○	○○	4名
ケニア	○○●	○○	5名
計	3カ国	3カ国	3カ国
	8名	5名	13名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp